「日本風景街道」有識者懇談会提言（案）と道の駅

両者の連携でさらなる魅力が

日本風景街道有識者懇談会委員
宮崎大学地域資源創成学部教授　熊野稔

日本風景街道の目的は、郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出することである。同時に、道路を基本に多様な主体が協働して、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、地域活性化、観光振興に寄与することにある。

第４回日本風景街道有識者懇談会が７月23日に開かれ、「日本風景街道の発展に向けて提言（案）」について意見を交換し合い、方向性がまとまった。

ぐるり富士山風景街道と道の駅

歌川広重《東海道五拾三次　由井　薩埵峠》

平成17年12月に発足した日本風景街道戦略会議による提言（平成19年４月）を踏まえ、日本風景街道の枠組みが作られてから10年以上が経過し、全国に１４１ルートが誕生してきた。

その間、まち・ひと・しごと創生法（Ｈ26・12）／道路協力団体制度創設（Ｈ28・４）／無電柱化推進法（Ｈ28・12）／自転車活用推進法（Ｈ29・５）／道路デザイン指針（案）、景観に配慮した道路附属物等ガイドライン策定（Ｈ29・10）などがあった。合わせて各種の観光施策（日本版ＤＭＯ、多方面での法制度等の充実、観光ビジョン実現プログラム２０１８、日本遺産、ジオパーク、農業遺産等）も施行され、インバウンド増加等による機運の高まり等、道路を取り巻く社会動向の変化もめまぐるしかった。

一方で風景街道の認知度不足や活動の停滞等の課題も散見されるようになり、発展への具体的取り組みの方向性案が示された。以下の３本柱が基本となっている。

①活動の活性化
景観の整備・保全、案内看板等の検討、情報の発信・共有

②交流連携の促進
道の駅との連携、同種活動との連携、関連施策との連携、関係者の交流

③環境活動の整備
表彰制度導入、登録内容の再確認、道路協力団体制度の活用、支援体制の構築等

１４１ルートに存在する道の駅の数は多く、風景街道と道の駅の連携は、今後さらに重要と思われる。

近畿風景街道協議会は冊子「日本風景街道 with 道の駅」を作成し、風景街道と道の駅の魅力を紹介している。「ぐるり・富士山風景街道」では、道の駅「あさぎり」でシーニックマルシェを開催、道路の美化活動資金拠出を図っている。

道の駅と連携した情報発信、活動・情報発信拠点としての道の駅の活用や共同イベント、ファンクラブの創設、合同会議など、双方の相乗効果がさらに図れる形での連携が実現すれば、さらなる魅力が発信され観光客の増加、地域活性化への機運が高まるのではないだろうか。

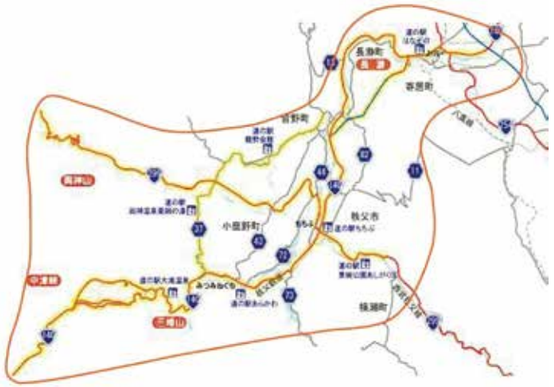
道の駅と風景街道の連携

元名桜大学大学院教授　小濱哲

道の駅も風景街道も国土交通省が進める制度で、全国に定着している。道の駅が地域の中核施設として機能している一方、風景街道には特定の施設はなく、既存の道路の快適性を高めることに主眼が置かれている。どちらも地元の住民や企業に支えられていることが共通で、目的も最終的には地域の振興に結びつくものである。

点から線、線から面へ発展すると言われるが、その意味では点は道の駅、線は風景街道と考えられる。道の駅は、道路利用者の利便性を高める以外に、地方創生の中で地域振興の拠点として位置づけられ、防災や農林水産物の販売、文化や風土の展示や集会などの拠点として複合的な機能が付加されている。高齢者のための施設や教育機関、医療施設なども併設し、小さな拠点化を目指し試みている地域もある。

風景街道「秩父路ルネッサンス」と道の駅



日本風景街道

ロゴマークはコシノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へと続いていくことへの願いをこめて表現した。

道の駅　風景街道

点と線の協力で情報発信

風景街道は、パートナーシップに支えられ、植栽や清掃をしたりイベントの開催、標識の整備、ガードレールや柵の色彩を統一するなどの活動を地道に行っている。道路を利用する人の快適性を高める中で、地域への理解や親密性を深める働きを持つと言える。道の駅に比べると、制度資金や整備のための資金が使いにくい面もある。

三峰山に近い荒川の景観（道の駅「大滝温泉」で）

風景街道はいくつかのパートナーシップがそれぞれ活動するため、行政としても活動を取りまとめたり積極的な指導を行うことが困難で、活動情報は把握できても、事業として風景街道の活動を支えることが難しい状況である。

しかし、風景街道には活動を表彰する制度がある。地域に根ざして継続的に活動を行っているパートナーシップの成果を評価しようとする制度で、地味な活動を地域の人々とともに一生懸命に行っている組織を紹介し、行政としてもキチンと見ていることを伝えるものでもある。

評価の際には、地元マスコミにも取り上げてもらい、活動する人たちのモチベーションを上げることにも配慮している。パートナーシップ間にはあまり交流がないため、表彰制度で取り上げたパートナーシップの活動内容や悩みを知り、きっかけとして相互の情報流通が生まれれば良い、と思っている。

風景街道が親しまれ、より利用されるためには、情報発信が重要だ。ＪＡＦ（日本自動車連盟）は風景街道をドライブするモデルコースを紹介しており、利用する人々も増えている。道の駅が情報拠点機能を持つなら、近隣の風景街道の情報を集中的に取り上げてほしい。走りやすさや見所ばかりでなく、車を降りて歩く場所や写真スポット、立ち寄りたい商店街やカフェなど、素材に限りはない。

道の駅の満足度をモニタリング

全国「道の駅」連絡会
https://www.michi-no-eki.jp

全国「道の駅」連絡会は、９月中旬から各地の道の駅で、「道の駅　モニタリング」を始める。道の駅利用者の満足度や利用者のさまざまなニーズを調査し、道の駅の質の向上に役立てるのが目的だ。

ポスターやチラシなどに刷り込んだＱＲコードをスマホに読み込んでもらい、アンケートに答えてもらう仕組みで、実際に道の駅を訪れた利用者の「生の声」を収集する。

回答者にはプレゼントを用意、抽選で当選者を決める。

詳細は同連絡会のＨＰ参照（https://www.michi-no-eki.jp）